

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップ2023）

参考資料 1-1
科学技術・学術審議会
学術分科会（第90回）
令和6年2月2日

◆ 学術研究の大型プロジェクトについて

- ✓ 「Bファクトリー」、「スーパーカミオカンデ」等の学術研究の大型プロジェクトは、最先端の技術や知識を結集して人類未踏の研究課題に挑み、世界の学術研究を先導する画期的な成果を挙げている ※「スーパーカミオカンデ」によるニュートリノ振動の発見（2015年ノーベル物理学賞受賞）など
- ✓ 一方、大型プロジェクトは長期間にわたって多額の経費を要するため、その推進に当たっては、広く社会・国民の支持を得ながら、国内外の学術研究の全体状況はもとより、公財政支出の現況や将来見通し等にも留意しつつ、**長期的な展望をもって戦略的・計画的に推進していく必要**

国として大型プロジェクトの優先度を明らかにする観点から、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップ）」を策定

※これまで、2010、2012、2014、2017、2020年に策定

◆ ロードマップ2023の策定

- ✓ 「ロードマップ2023」の対象は、実施期間が5～10年程度、予算規模が概ね数十億から2000億円程度の研究計画
- ✓ 公募の結果、申請のあった47件の研究計画について、科学技術・学術審議会において、幅広い分野の専門家によるきめ細かい審査を実施し、**12計画を掲載した「ロードマップ2023」を策定**
- ✓ 「ロードマップ2023」には、各掲載計画の基礎的な情報のほか、審査の過程で指摘された「主な優れている点」「主な課題・留意点」を掲載

<ロードマップ2023 掲載計画>

- BSL-4施設を中核とした感染症研究拠点の形成*（長崎大学）
- スピントロニクス・量子情報学術研究基盤と連携ネットワーク*（東京大学）
- 多様な知が活躍できるパワーレーザー国際共創プラットフォーム：J-EPoCH計画（大阪大学レーザー科学研究所）
- 極低放射能環境でのニュートリノ研究（東北大学ニュートリノ科学研究センター）
- IceCube-Gen2 国際ニュートリノ天文台による高エネルギーニュートリノ天文学・物理学研究（千葉大学ハドロン宇宙国際研究センター）
- CTA国際宇宙ガンマ線天文台（東京大学宇宙線研究所）
- 強磁場コラボラトリー：統合された次世代全日本強磁場施設の形成*（東京大学物性研究所）
- 30m光学赤外線望遠鏡計画TMT（自然科学研究機構国立天文台）
- 超高温プラズマの「マイクロ集団現象」と核融合科学（自然科学研究機構核融合科学研究所）
- LiteBIRD—熱いビッグバン以前の宇宙を探索する宇宙マイクロ波背景放射偏光観測衛星*（宇宙航空研究開発機構）
- アト秒レーザー科学研究施設*（東京大学）
- 統合全球海洋観測システムOneArgoの構築と海洋融合研究の推進（東北大学）

※カッコ内は実施主体（中核機関）

※ *はロードマップ2020からの継続掲載（5計画）